

VRS(VirtualReScan)

取扱説明書

(VRS 搭載 fi-4990, fi-4750)

株式会社 PFU

版数	発行日	改訂内容
01	2002年8月	初版

Copyright

Copyright © 2000 Kofax Image Products. All Rights Reserved. Printed in the USA.

本書に含まれる情報は Kofax Image Products の所有物です。Kofax Image Products の書面による承認なく本書の内容を複製、公開することを禁じます。明確な責任は想定されていませんが、ここに含まれている情報の使用は尊重されています。

商標及び登録商標について

Kofax, ImageControls、Adrenaline は登録商標です。VirtualReScan は Kofax Image Products の商標です。

ISIS is a registered trademark of Pixel Translations, a division of Input Software, Inc.

TWAIN は TWAIN Working Group の登録商標です。

本書中の商品名やロゴは、各社の登録商標または商標です。

免責条項

本書に含まれる内容は印刷時の内容を正確に著すよう記述されていますが、製品の改良に伴い、製品および文書の内容は予告なく変更される場合があります。Kofax Image Products は、エラー、落丁、または製品と本書の相違により発生した直接的または間接的な損害について、一切その責を負いません。

文書内では、設定の変更が可能な箇所については、設定可能なすべての状態で検証を行っておりますが、それ以外の値またはパラメータが指定された場合、予測できない結果が生じる可能性があります。あらかじめご了承ください。

目次

はじめに	1
製品概要	1
VRS 製品のハードウェア構成	3
VRS 製品パッケージ(バンドル版)	4
システム要件	6
コンピュータ	6
スキャナ	7
黒裏当て(別売)	7
インストール	8
ステップ 1 黒裏当てのインストール (fi-4990 専用)	9
ステップ 2 VRS ソフトウェアのインストール	9
ステップ 3 Adrenaline ハードウェア・アクセラレータのインストール	13
Kofax 社製アクセラレータとの競合	13
インストールの前に	13
Windows 95/98 におけるアクセラレータの設定	15
WindowsNT 上でのアクセラレータの設定	16
Windows2000 上でのアクセラレータの設定	18
VRS ソフトウェアのインストール手順を間違えたとき	24
ステップ 4 GSA(グレースケールアダプタ)のインストール	27
fi-4990 イメージスキャナ用 GSA のインストール	27
fi-4750 イメージスキャナ用 GSA のインストール	29
ステップ 5 スキャナの接続	31
ステップ 6 VRS 動作確認	32

TWAIN アプリケーション使用の場合	38
VirtualReScan の開始	43
VRS メニューを開く.....	44
VRS メニューコマンド	45
例外条件パラメータの定義	46
[Warnings] タブ.....	47
Threshold (しきい値) の選択.....	48
Action (動作) の選択.....	51
[Errors] (エラー) タブ.....	52
Action(動作) オプション.....	54
Auto Resolve Manager を使用する	57
モードの選択	59
イメージプロパティの更新	61
VRS ビューアの使用.....	63
表示の調節に [Zoom] メニューを使用する	63
表示の調節にマウスボタンを使用する	64
[VRS Interactive Property] ダイアログボックスの使用	65
[VRS Interactive Property] ダイアログボックスタブ.....	66
[VRS Interactive Property] ダイアログボックスのボタン.....	67
[Clarity] タブを使用する	69
[Noise] タブを使用する	73
[Skew] タブを使用する	76
[Profile] タブを使用する	79
[Option] タブを使用する	83

Automatic Deskew (自動傾き補正)	84
Automatic Image Crop (イメージクロップ)	84
Accelerated Scanning (加速スキャン)	85
VRS Refresh (イメージ更新)	86
Intelligent Contrast/Brightness Adjustment (自動コントラスト/明るさの調節)	86
[Analysis]タブを使用する	87
[About]タブを使用する	90
イメージのプレビュー	91
VRS のリセット	93
障害追跡手順	94
修理部品の交換	103
PFU テクニカルサポート	104

はじめに

このガイドでは、VRS(VirtualReScan)のハードウェア・ソフトウェアコンポーネントのインストール方法について説明します。

製品概要

VRS は、お客様の基準にあった読取り画像の画質を提供するよう設計された、ハードウェア・ソフトウェアのパッケージです。Kofax Adrenaline ハードウェア・アクセラレータをサポートする 32 ビットのアプリケーションや ISIS®、TWAIN® 対応のアプリケーション用に設計されています。VRS を使うことによって、大容量のスキャンングを容易かつ低コストで行うことができ、低品質のイメージを自動的に検出して自動イメージ強調機能により認識エラーを大幅に減少させます。VRS のご使用により、お客様の基準に合ったスキャンイメージの品質を維持でき、リアルタイムで簡単にイメージの修正を行うことができます。

また、複数のドキュメントサイズおよび異なる画質で構成されているバッチのスキャン機能、ドキュメントのタイプに最適な明度設定を自動的に行う機能などが備わっています。VRS は更に紙詰まりや紙端折れ、デバイスの競合も検出します。バッチの仕分けはもう必要ありません。時間の節約に加え、処理後の正確さが増し、保存条件も簡素化されました。

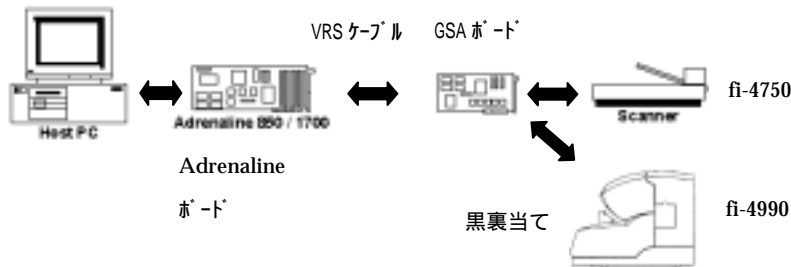
OCR (光学式文字認識) 精度が重要なバッチスキャンにおいては、従来コントラストの低いドキュメントには問題がありました。VRS で「自動明度調節」を有効にすれば、低コントラストイメージが自動的に OCR の基準を満たすレベルにまで調節され信頼性のあるバッチ処理が行えます。

さらに VRS には、最高品質の読取画像を提供するため以下のような機能を備えています。

- 自動傾き補正(読取時に傾いたイメージを自動的に修正)
- イメージクロップ(入力原稿サイズで自動的に切り出し)
- ノイズ除去(孤立点の除去)
- ガンマ補正(ガンマ補正によりイメージの明度を調整)
- 文字平滑化(イメージ上のギザギザの線や文字の平滑化)
- ラインフィルタ(文字の太さ/細さを調整)

VRS 製品のハードウェア構成

VRS 製品のハードウェア構成を以下に示します。



注意 GSA(グレースケール・スキャナ・アダプタ)ボード:スキャナのTPS (サードパーティスロット)に実装。

Adrenaline (ハードウェア・アクセラレータ) ボード: ホストコンピュータのPCI スロットに実装。

VRS ケーブル: SCS13-SCSI3 インタフェースケーブル。

黒裏当て: fi-4990 イメージスキャナ専用で、保守員によるインストールが必要です。販売代理店までご連絡下さい。

上記のハードウェア製品は、黒裏当てを除き、お客様によるインストールが基本となっております。

VRS 製品パッケージ(バンドル版)

VRS 製品パッケージ(バンドル版)の構成部品を以下に示します。

GSA ボードパッケージ

品名	数量	備考
GSA ボード (Kofax グレースケール・スキャナ・アダプタ)	1 個	Fi-4990 用 : 128MB メモリを実装 fi-4750 用 : 64MB メモリを実装 スキャナ側に実装
VRS インストールCD	1 個	VRS ソフトウェア
VRS Getting Started Guide	1 冊	VRS 取扱説明書 (英文)
VRS ケーブル	1 本	SCSI3-SCSI3 (68 ピン)
Register Now (Registration Card)	1 枚	KOFAX お客様登録カード P F Uのテクニカルサポートを受ける際には必要となります。大切に保管して下さい。
Statement of Limited Warranty	1 枚	KOFAX Warranty 説明書

Adrenaline (ハードウェア・アクセラレータ) ボードパッケージ

品名	数量	備考
Adrenaline (ハードウェア・アクセラレータ) ボード	1 個	機種によりボードが異なります。 fi-4990 用 : Adrenaline 1700S fi-4750 用 : Adrenaline 850S コンピュータ側に実装します。
Register Now (Registration Card)	1 枚	KOFAX お客様登録カード P F U のテクニカルサポートを受ける際には必要となります。大切に保管して下さい。
Statement of Limited Warranty	1 枚	KOFAX Warranty 説明書

注意 アップグレード版の VRS 製品をご使用される場合、別売りの Adrenaline ハードウェア・アクセラレータが必要となります。バンドル版の VRS 製品は、Adrenaline ハードウェア・アクセラレータが同梱されています。また fi-4990 イメージスキャナで VRS 製品をご使用される場合は、別売りの黒裏当てが必要となります。この黒裏当ては、保守員による取り付けと調整が必要となりますので、販売代理店にご連絡下さい。

システム要件

お手持ちのコンピュータおよびイメージスキャナが次の必要条件を満たすようにご注意ください。

コンピュータ

- Pentium class PC 500 MHz 以上 (2 値読取りのとき)
- Pentium class PC 600 MHz 以上 (グレースケール読取りのとき)
- 128Mbyte RAM (2 値読取りのとき)
- 256Mbyte RAM (グレースケール読取りのとき)
- Windows 95/98/2000/Me/NT4.0/XP
- 250Mbytes の空きスペースがあるハードディスク
- モニタ解像度：最小 800 x 600 推奨 1024 x 768
- Adrenaline 1700S ハードウェア・アクセラレータ**(別売)** - fi-4990 イメージスキャナ用 (バンドル版には、同梱されています。)
- Adrenaline 850S ハードウェア・アクセラレータ**(別売)** - fi-4750 イメージスキャナ用 (バンドル版には、同梱されています。)

注意 アップグレード版の VRS 製品をご使用される場合、上記別売りの Adrenaline ハードウェア・アクセラレータが必要となりますので販売代理店にご連絡下さい。fi-4990 用の Adrenaline 1700S ハードウェア・アクセラレータは、PCI スロット用のフルサイズ (サイズ: 約 356 × 108mm) のボードです。(コンピュータはデスクトップ又はミニタワーサイズ以上が必要です。) fi-4750 用の Adrenaline 850S ハードウェア・アクセラレータは、PCI スロット用のハーフサイズ (サイズ: 約 191 × 108mm) のボードです。

スキャナ

- fi-4990 イメージスキャナ
- fi-4750 イメージスキャナ

黒裏当て(別売)

- fi-4990 イメージスキャナで VRS 製品をご使用される場合には、別売りの黒裏当てが必要です。この黒裏当ては、保守員による取り付けと調整が必要となりますので、販売代理店にご連絡下さい。

インストール

このセクションでは、VRS の動作に必要なハードウェアとソフトウェアのインストール方法を説明します。インストール手順は基本的に次の 6 段階のステップで構成されています。

注意 fi-4990 イメージスキャナ装置の場合、下記手順により 2 項から 6 項までを行って下さい。1 項の黒裏当てのインストールは、保守員による取り付けと調整が必要となりますので、販売代理店にご連絡下さい。fi-4750 イメージスキャナ装置の場合、下記手順（1 項は除く）により 2 項から 6 項までを行って下さい。

- 1 黒裏当てのインストール(fi-4990 イメージスキャナ専用)
(インストールの説明書は、黒裏当てのパッケージに同梱されています。)
- 2 VRS ソフトウェアをコンピュータにインストールします。
(必ず Adrenaline ハードウェア・アクセラレータをコンピュータにインストールする前に VRS 製品パッケージに添付の VRS ソフトウェアをインストールして下さい。)
- 3 Adrenaline ハードウェア・アクセラレータ(別売り)をコンピュータにインストールします。
- 4 GSA(グレースケールアダプタ)のインストール
- 5 スキャナをコンピュータに接続します。
- 6 VRS 動作確認

ステップ1 黒裏当てのインストール (fi-4990 専用)

注意 黒裏当てのインストールは、保守員による取り付けと調整が必要となりますので、販売代理店にご連絡下さい。(fi-4750 イメージスキャナは必要ありません。)

ステップ2 VRSソフトウェアのインストール

このセクションでは、VRS(VirtualReScan)のソフトウェアのインストール方法を説明します。デフォルトでは、ソフトウェアは「C:¥Program Files¥Kofax¥Imgctls」フォルダにインストールされますが、別のインストールフォルダを選択することもできます。Windows NT4.0、2000 及び XP に VRS をインストールする場合は、管理者権限が必要ですので Administrator 権限でログインして下さい。

▶ VRS ソフトウェアのインストール手順

- 1 VRS のインストール CD が CD - ROM ドライブに挿入されていることを確認します。
- 2 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択し、図 2.1 に示されているように D:¥Setup.exe (D は CD - ROM のドライブ名) を開きます。パスを選択するには、次のいずれかを行います。
 - a [Browse...] ボタンでパスを選択します。

b テキストボックスにパスを入力します。



図 2.1 [VRS インストールプログラムパス]

3 [OK]をクリックすると図 2.2 で示されているように[VirtualReScan Setup]ダイアログボックスが現れます。



図 2.2 [VirtualReScan Setup]ダイアログボックス

- 4 [Next] をクリックして、図 2.3 のような [VirtualReScan Setup] ダイアログボックスを開きます。[VirtualReScan] が選択され、適切なフォルダが選択されていることを確認します。デフォルトのフォルダは C:\Program Files\Kofax\Imgctlis です。[Browse...] ボタンで別のインストールフォルダを選択することもできます。



図 2.3 [VirtualReScan Setup] ダイアログボックス 2

- 5 [Next] をクリックするとインストールが開始され、経過を示すインジケータがインストール終了まで表示されます。VRS のインストールが完了すると、図 2.4 のような [Setup Complete] ダイアログボックスが表示されます。



図 2.4 [Setup Complete]ダイアログボックス

- 6 コンピュータの再起動を直ちに行うか後で行うかのオプションを選択し、[Finish]をクリックしてインストールを終了します。

注意 Windows が Adrenaline ハードウェア・アクセラレータに必要なドライバを確実に認識するため、コンピュータを再起動する必要があります。

- 7 VRS インストール CD を CD-ROM ドライブから取り出し、安全な場所に保管します。

ステップ3 Adrenaline ハードウェア・アクセラレータのインストール

既にお持ちのコンピュータに Adrenaline ハードウェア・アクセラレータをインストールされている場合は、以下のメモを読みステップ4に進んでください。

このセクションは Adrenaline ハードウェア・アクセラレータのインストール方法について説明しています。

注意 VRS(VirtualReScan)を正常に動作させるため、VRS のインストール CD に含まれているソフトウェアのみインストールしてください。Adrenaline ハードウェア・アクセラレータの CD に含まれるソフトウェアはインストールしないでください。(必要な場合は、アンインストールして下さい。)

Kofax 社製アクセラレータとの競合

Kofax 社製の別のハードウェア・アクセラレータがインストールされているコンピュータに Adrenaline ハードウェア・アクセラレータをインストールすることはお勧めできません。必要ならば、Adrenaline ハードウェア・アクセラレータをインストールする前に Kofax 社製のアクセラレータをアンインストールしてください。

インストールの前に

Adrenaline ハードウェア・アクセラレータをご使用の際は、以下の点に注意が必要です。

- VRS ソフトウェアのインストールが完了してから Adrenaline ハードウェアアクセラレータをインストールして下さい。

- インストールの準備ができてから、Adrenaline ハードウェア・アクセラレータの梱包を解いてください。
- インストールの前にコンピュータの電源をお切りください。
- Adrenaline ハードウェア・アクセラレータを取り扱う前に、コンピュータの金属のシャーシに触れ作業場所とご自身の静電気を放出してください。
- Adrenaline ハードウェア・アクセラレータを取り扱う際には、ボードの端を持ち、金属部分には触れないようにして下さい。

コンピュータの電源を切り、図 3.1 のように使用可能な PCI スロットにアクセラレータをインストールします。Adrenaline ハードウェア・アクセラレータはねじで固定してください。

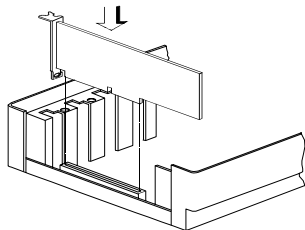


図 3.1 [Adrenaline ハードウェア・アクセラレータのインストール]

Windows 95/98 におけるアクセラレータの設定

Adrenaline ハードウェア・アクセラレータをインストール後、コンピュータの電源を入れてください。Windows は Adrenaline ハードウェア・アクセラレータを検出し、もし VRS ソフトウェアが正常にインストールされていればハードウェア・アクセラレータに必要なドライバを自動的に確認します。

WindowsNT 上でのアクセラレータの設定

ソフトウェアをインストールすると、「Kofax Configuration Manager Utility」のアイテムが Windows のコントロールパネルに追加されます。

▶ Windows NT 上で Adrenaline ハードウェア・アクセラレータを設定するには

- 1 [コントロールパネル] - [Kofax Configuration Manager]を選択し、図 3.2 のような[Kofax Configuration Manager(KCM)]ダイアログボックスを表示させます。



図 3.2 [Kofax Configuration Manager(KCM)]ダイアログボックス

注意 ソフトウェアのインストールが正常に行われていないと、コントロールパネルに Kofax Configuration Manager Utility が表示されません。

- 2 [Next]をクリックします。図 3.3 のような[KCM Configured Accelerators]ダイアログボックスが表示されます。



図 3.3 [KCM Configured Accelerators]ダイアログボックス

- 3 [Next] をクリックし、画面に表示される指示に従ってインストールを完了させます。再起動の指示が出たら、コンピュータを再起動してください。

Windows2000 上でのアクセラレータの設定

Adrenaline ハードウェア・アクセラレータをインストール後、コンピュータの電源を入れてください。

以下の手順で、Adrenaline ハードウェア・アクセラレータを設定します。

- 1 Windows は Adrenaline ハードウェア・アクセラレータを検出し、図 3.4 のような[新しいハードウェア検索ウィザードの開始]ダイアログボックスが表示されます。



図 3.4 [新しいハードウェア検索ウィザードの開始]ダイアログボックス

2 [次へ]をクリックします。

図 3.5 のような[ハードウェアデバイスドライバのインストール]のダイアログボックスが表示されます。

[デバイスに最適なドライバを検索する]を選択します。



図 3.5 [ハードウェアデバイスドライバのインストール]ダイアログボックス

3 [次へ]をクリックします。

図 3.6 のような[ドライバファイルの特定]のダイアログボックスが表示されます。検索場所のオプションで、[CD-ROM ドライブ]及び[場所を指定]を選択し、CD-ROM ドライブに VRS ソフトウェアの CD を挿入して下さい。



図 3.6 [ドライバファイルの特定]ダイアログボックス

4 [次へ]をクリックします。

図 3.7 のような[製造元ファイルのコピー元指定]のダイアログボックスが表示されます。

[参照]をクリックしてF:¥WIN_2K¥BICWDM.INF を選択して[開く]をクリックするか、製造元のファイルコピー元にF:¥WIN_2Kを指定して[OK]をクリックします。(FはCD-ROMドライブの番号)

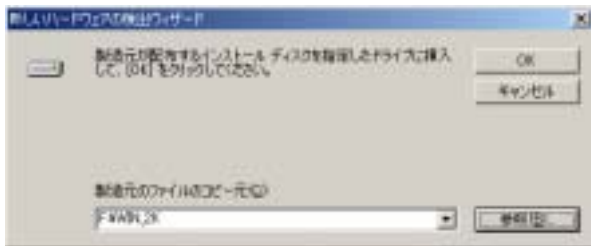


図 3.7 [製造元ファイルのコピー元指定]ダイアログボックス

- 5 [次へ]をクリックします。

図 3.8 のような[ハードウェアデバイスドライバファイル検索の終了]のダイアログボックスが表示されます。ファイルコピー元[F:¥WIN_2K¥BICWDM.INF]を確認して下さい。(FはCD-ROMドライブ番号)



図 2.8[ハードウェアデバイスドライバファイル検索の終了]ダイアログボックス

6 [次へ]をクリックします。

Adrenaline のデバイスドライバインストールが終了し、図 3.9 のような[新しいハードウェア検索ウィザードの完了]のダイアログボックスが表示されます。



図 3.9 [新しいハードウェア検索ウィザードの完了]ダイアログボックス

- 7 [完了]をクリックして終了。コンピュータを再起動してください。

▶ Windows 2000 の場合

注意 VRS のソフトウェアより先に Adrenaline ハードウェア・アクセラレータをインストールして、ドライバが正常にインストールできていないときは、その他のデバイスに Adrenaline ハードウェア・アクセラレータが認識されます。その他のデバイスに Adrenaline ハードウェア・アクセラレータが認識されたままですと、ドライバのインストールが完了しなくなります。

以下の手順で、インストールをやり直して下さい。
再インストールの前に以下のアンインストールを実行して下さい。

1 VRS ソフトウェアの削除

[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [アプリケーションの追加と削除]を選択し[Virtual ReScan]を削除します。

2 レジストリの削除

- a レジストリエディタで、以下に示すフォルダを削除します。
- b [スタート] - [ファイル名を指定して実行]を選択します。[Regedt32]の名前を入力し、[OK]をクリックします。

セクション : HKEY_LOCAL_MACHINE-SYSTEM-CurrentControlSet-Services

削除するフォルダ : Bic
 : BicWdm

- 3 その他のデバイスの削除
 - a [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [システム] - [ハードウェア] - [デバイスマネージャー]をクリックします。
 - b その他のデバイス - PCI Device を削除します。
 - c [デバイスマネージャー]を終了します。

- 4 KOFAX ファイルの削除
 - a [マイコンピュータ] - [検索]をクリックします。
 - b [ファイル又はフォルダの名前]に[kofax*. *]と入力します。
 - c [探す場所]に[C : ¥]を指定します。
 - d [検索開始]をクリックします。
 - e 検索されたフォルダ及びファイルを全て削除します。

- 5 コンピュータの電源を切断します。

- 6 Adrenaline ハードウェアアクセラレータを取り外します。
再インストール手順は、インストールの項目を参照して下さい。

▶ Windows 98 の場合

注意 VRS のソフトウェアより先に Adrenaline ハードウェア・アクセラレータをインストールして、ドライバが正常にインストールできていないときは、その他のデバイスに Adrenaline ハードウェア・アクセラレータが認識されます。

以下の手順で、インストールをやり直して下さい。

- 1 その他のデバイスの削除
 - a [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [システム] - [ハードウェア] - [デバイスマネージャー]をクリックします。
 - b [その他のデバイス - PCI Card]を選択して、削除します。
 - c [デバイスマネージャー]を終了します。

- 2 VRS のソフトウェアがインストール済みなら 3 項に進んで下さい。
インストールがまだの場合は、VRS のソフトウェアをインストールして下さい。

- 3 コンピュータを再起動します。

- 4 Windows は、Adrenaline ハードウェアアクセラレータを検出し、アクセラレータに必要なドライバを自動的に確認します。

ステップ4 GSA(グレースケールアダプタ)のインストール

このセクションは GSA(グレースケールアダプタ)のインストール方法について説明しています。

GSA(グレースケールアダプタ)をインストールする際は、以下の注意が必要です。

- ・インストールの前にスキャナの電源をお切り下さい。
- ・GSA(グレースケールアダプタ)を取り扱う前に、コンピュータ等の金属シャーシに触れて作業場所とご自身の静電気を放出して下さい。

fi-4990 イメージスキャナ用 GSA のインストール

以下の手順で、fi-4990 イメージスキャナ用 GSA ボードをインストールします。

- 1 図 4.1 のように fi-4990 イメージスキャナ装置右背面のネジ 2 個を外して TPS(サードパーティスロットカバー)を外します。

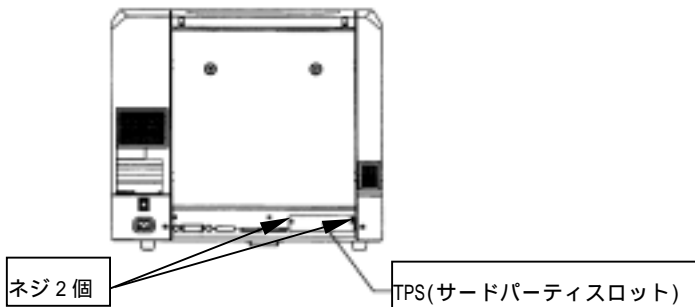


図 4.1 fi-4990 背面図

- 2 GSA ボードを TPS 左右のレールに沿って挿入し、TPS 前方のコネクタに差し込んでから GSA ボード前面板をネジで固定します。TPS カバーは保管して下さい。

fi-4750 イメージスキャナ用 GSA のインストール

以下の手順で、fi-4750 イメージスキャナ用 GSA ボードをインストールします。

- 1 図 4.2 のように fi-4750 イメージスキャナ装置右背面のネジ 2 個を外して TPS(サードパーティスロット)カバーを外します。

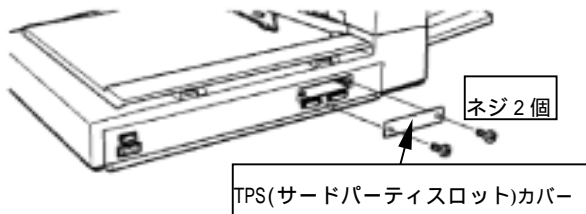


図 4.2 [fi-4750 背面図-2]

- 2 図 4.3 のように GSA ボードを TPS の左右のレールに沿って挿入し、TPS 前方のコネクタに差し込んでから GSA ボード前面板をネジで固定します。TPS カバーは保管して下さい。

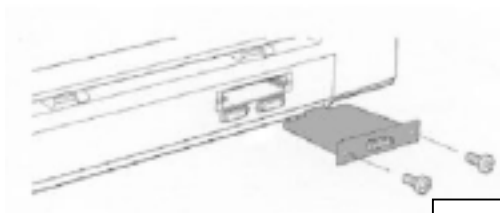


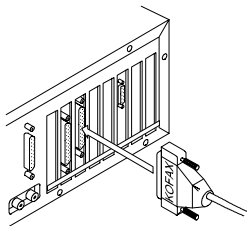
図 4.3 [fi-4750 背面図-2]

ネジ 2 個

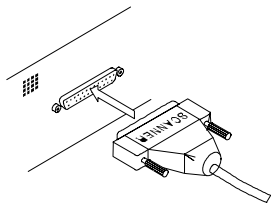
ステップ5 スキャナの接続

▶ スキャナをコンピュータに接続するには

- 1 スキャナの電源を切断して下さい。
- 2 図 5.1 のように VRS ケーブルの片側のコネクタを、コンピュータに取り付けられた Kofax Adrenaline ハードウェアアクセラレータのコネクタに接続します。
VRS ケーブルの片側のコネクタをスキャナの TPS (サードパーティスロット) に取り付けられた GSA のコネクタに接続します。
- 3 スキャナの電源を入れて下さい。



コンピュータ側へのコネクタの接続
(ステップ 1)



スキャナ側へのコネクタの接続
(ステップ 2)

図 5.1 [スキャナとコンピュータの接続]

ステップ6 VRS 動作確認

▶ VCDemo プログラムを使用して VRS の動作確認

以下の手順で、VRS ソフトウェアに添付の VCDemo プログラムを使用して VRS の動作確認を行います。コンピュータの電源を入れます。Windows の OS が立ち上がったらスキャナの電源を入れます。

コンピュータのタスクバーから[スタート] - [プログラム] - [kofax VRS]の順にファイルを選択し、[VCDEM32P.EXE]を起動すると図 6.1 のような [VCDemo の起動] の画面が表示されます。

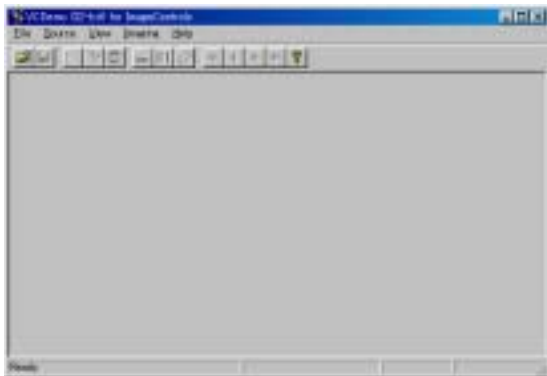


図 6.1 [VCDemo の起動]

- 1 メニューバーの[Source]をクリックして[Scanner]を選択すると図 6.2 のような[Select Scan Source]の画面が表示されます。
接続されているスキャナの[VirtualReScan source]を選択して[OK]をクリックします。

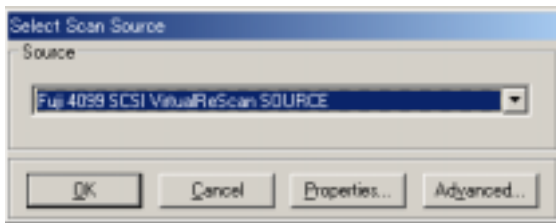


図 6.2 [Select Scan Source]

- 2 Source を選択したら図 6.3 のような[VRS アイコン]が Windows のタスクバーに表示され VRS がアクティブになったことを確認できます。

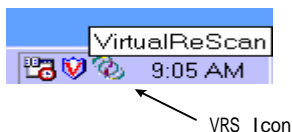


図 6.3[VRS アイコン]

- 3 メニューバーの[Source]をクリックして[Properties]を選択すると図 6.3 のような[Scanner Properties - VirtualReScan]の画面が表示されます。

次の設定を行い「KO」をクリックします。

- Resolution : 200dpi
- Paper Size : Maximum
- Color Mode : Black & White

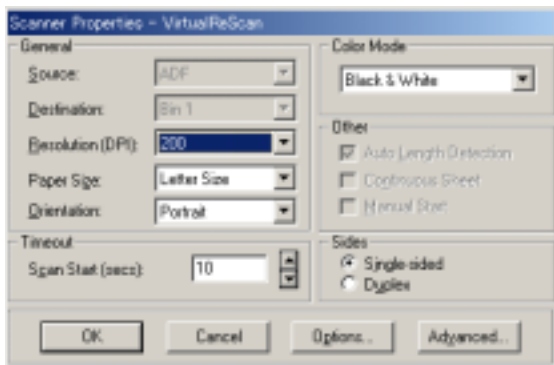


図 6.3 [Scanner Properties – VirtualReScan]

- 4 メニューバーの「File」をクリックして「Save Files To」を選択すると図 6.4 のような[Save Files To]の画面が表示されます。

ここで、読取原稿の保存場所を指定します。デフォルトの保存場所は、
C:¥Program Files¥Kofax¥Imgcrls¥Bin です。



図 6.4 [Save Files To]

- 5 メニューバーの「File」をクリックして「Storage Format」を選択すると図 6.5 のような[Storage Format]の画面が表示されます。

ここで、読取原稿のファイルフォーマットを指定します。



図 6.5 [Storage Format]

- 6 イメージスキャナ装置の原稿台上に原稿をセットします。
- 7 メニューバーの「Source」をクリックして「Process Image」を選択するか、左から 3 個目のアイコン（原稿 1 枚のアイコン）をクリックすると一枚原稿が読み取られます。
メニューバーの「Source」をクリックして「Process Batch」を選択するか、左から 4 個目のアイコン（原稿 2 枚のアイコン）をクリックすると連続で原稿が読み取られます。
- 8 原稿が読み取られて、画面左側に読取結果、画面右側に図 2.6.5 「VirtualReScan Interactive」が表示されます。（表示されない場合は、Windows のタスクバーの VRS アイコンを右クリックして VRS メニューから Preview を選択して下さい。）VRS が動作していると以下のようになります。
 - 読み取った原稿が、入力した原稿サイズに切り出されている。
 - 読み取った原稿が傾かず、斜行修正機能が働いている。
 - 画面右側の「Brightness」及び「Contrast」のスライダーを移動させると画面左側の画像明度が変化する。

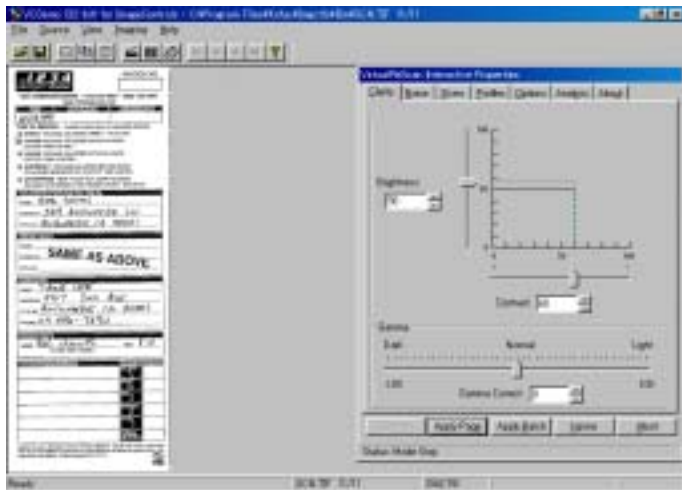


図 6.6 [VirtualReScan Interactive]

TWAIN アプリケーション使用の場合

TWAIN アプリケーションから VRS を起動する場合には、ATDS(Adrenaline TWAIN Data Source)をインストールした後で、KSM(Kofax Source Manager)を使用して、TWAIN scanner source の設定が必要になります。通常、VRS ソフトウェアの中に ATDS(Adrenaline TWAIN Data Source)が含まれていますので、VRS ソフトウェアのインストール時に自動でインストールされます。

以下の手順で TWAIN scanner source の設定を行って下さい。

▶ TWAIN scanner source の設定

1 Windows タスクバーのスタートから

スタート | 設定 | コントロールパネル | KSM(32-bit)を選択すると図 7.1 のような[Kofax Source Manager]ダイアログボックスが開きます。



図 7.1 [Kofax Source Manager]ダイアログボックス

- 2 次へを選択すると図 7.2 [KSM Configured Source] ダイアログボックスが開きます。



図 7.2 [KSM Configured Source] ダイアログボックス

- 3 Create を選択すると図 7.3 のような [Source Properties] ダイアログボックスが開きます。

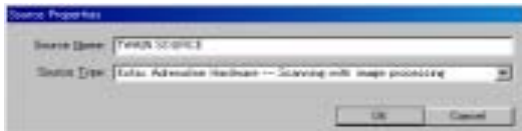


図 7.3 [Source Properties] ダイアログボックス

- a. Source Name: TWAIN SOURCE と入力します。
 - b. Source Type: Kofax Adrenaline Hardware--Scanning with image processing を選択します。
 - c. OK を選択します。
- 4 図 7.4 のような [Select Scanner] ダイアログボックスが開きます。
- a. Scanner Model を選択します。
 - b. OK を選択します。

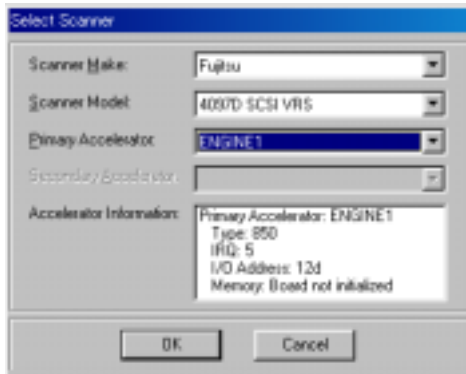


図 7.4 [Select Scanner] ダイアログボックス

- 5 図 7.2[KSM Configured Source]ダイアログボックスに TWAIN SOURCE が追加された図 7.5 のような[KSM Configured Source]ダイアログボックス 2 が開きます。



図 7.5[KSM Configured Source]ダイアログボックス 2

次へを選択します。

- 6 図 7.6 のような [Kofax Source Manager] ダイアログボックス画面が開きます。
完了を選択して終了です。



図 7.6 [Kofax Source Manager] ダイアログボックス

- 7 TWAIN アプリケーションのスキヤナ選択画面で、Kofax Adrenaline TWAIN Data Src を選択します。

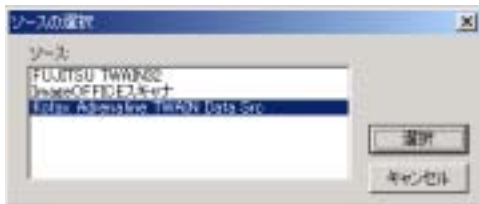


図 7.7 [Kofax Source Manager] ダイアログボックス

VirtualReScan の開始

▶ VRS を開始するには

- 1 イメージスキャナの電源を入れます。
- 2 スキャンアプリケーションを開始し、VirtualReScan ソースを選択します。
- 3 VRS アイコンが Windows のタスクバーに表示されます。

インストールが完了し、スキャンアプリケーションを開いたら、アプリケーションのスキャナ選択ボックスで VirtualReScan ソースを選択して、VRS をアクティブにします。ソースを選択したら図 1 のように VRS アイコンが Windows のタスクバーに表示され VRS がアクティブになったことを確認できます。

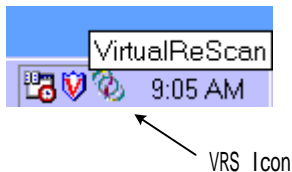


図 1 VRS アイコン

注意 VRS のインストール中、VirtualReScan ソースが自動的に作成され、デフォルトスキャンソースとして設定されます。スキャンアプリケーションからのソースの選択方法については、システム管理者にお問い合わせください。

VRS メニューを開く

VRS メニューを開いて、例外条件パラメータの設定、イメージプロパティのプレビューや更新、操作モードのプロファイルの選択、および Adrenaline ハードウェアアクセラレータのリセットができます。

▶ VRS メニューを開くには

- 1 Windows タスクバーの VirtualReScan アイコンを右クリックして、VRS メニューを開きます。



図2 VRS メニュー

- 2 VRS を初めて使用される場合は、まず [Configure] コマンドを選択してください。詳細は「例外条件パラメータの設定」を参照してください。他のメニューオプションについては、次の「VRS メニューコマンド」を参照してください。

VRS メニューコマンド

VRS メニューには、次のコマンドがあります。

Preview (プレビュー)

このコマンドを使用して、サンプルイメージを開き、イメージプロパティ設定のテストができます。詳細は、「イメージのプレビュー」を参照してください。

Profile (プロファイル)

このコマンドを使用して、イメージ処理のユーザ定義の設定で構成されているプロファイルを選択できます。詳細は「[Profile]タブを使用する」を参照してください。

Mode (モード)

このコマンドを使用して、VRS ユーザインターフェースがスキャンセッション中に開く操作モードを選択できます。詳細は「モードの選択」を参照してください。

Configure (設定)

このコマンドを使用して、例外条件パラメータの定義で使用する「VRS Administration Utility」ダイアログボックスを開きます。詳細は「例外条件パラメータの定義」を参照してください。

Reset (リセット)

権限のあるテクニカルサポートスタッフから Adrenaline ハードウェアアクセラレータの設定をリセットするように指示された場合、このコマンドを使用します。詳細は「VRS のリセット」を参照してください。

例外条件パラメータの定義

スキャン操作に入る前に、イメージの画質と例外処理の必要条件を定義するパラメータを設定します。パラメータを設定するには、[VRS]メニューから[Configure]コマンドを選択し、[VRS Administration Utility]ダイアログボックスを開きます。

[VRS Administration Utility]ダイアログボックスには、例外のタイプによって異なる2つのタブがあります。[Warnings]タブはイメージの画質に関連するタブで、[Errors]タブはデバイスの競合や用紙搬送に関連するタブです。それぞれのタブを設定することで、VRS が例外イメージを検出した場合どのように応答するかを定義できます。デフォルトの設定を使用することも、各例外タイプの処理をユーザ定義することもできます。「VRS Administration Utility」ダイアログボックスで行われた設定は、再度設定を変更するまで保存されます。

設定変更に関する詳細は、「[Warnings]タブ」、「[Errors]タブ」を参照してください。

[Warnings]タブ

[Warnings] (警告) タブは、画質に関連する例外条件の一覧表を表示します。各条件に対して、VRS が例外と認識するイメージの Threshold (しきい値) を設定します。[Action] (動作) カラムでは、各警告の種類に対する処理を選択します。

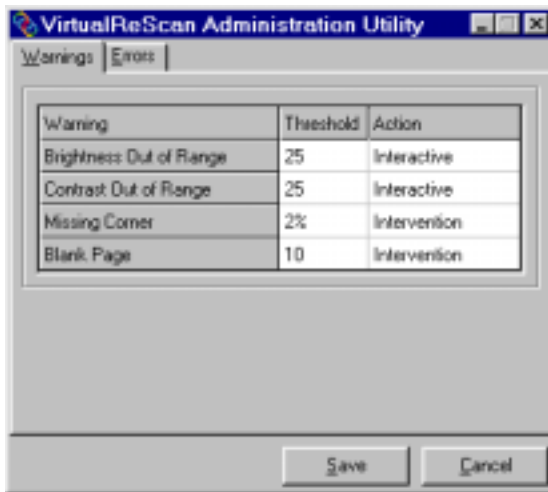


図3 「VRS Administration Utility」ダイアログボックス - [Warnings]タブ

表1 Warnings (警告) の種類

警告	原因
Blank page (白紙ページ)	読み取ったイメージが白紙か、あるいは一部のデータしか含まれていない
Brightness Out of Range (明るさの許容範囲外)	イメージの明るさが許容範囲を超えている
Missing corner (原稿端の折れ)	読み取ったイメージの端が切れている、あるいはぼやけている
Contrast Out of Range (コントラストの許容範囲外)	コントラスト値が許容範囲を超えている

Threshold (しきい値) の選択

しきい値は、VRS が明るさやコントラスト、原稿端切れや白紙イメージの許容範囲である「エラーマージン」を設定します。VRS は、エラーマージン外の値を持つイメージを検出し、各例外タイプで定義した動作に従ってイメージを処理します。

「Brightness Out of Range」(明るさの許容範囲外) のしきい値

明るさの値の有効な範囲を定義するため使用するしきい値です。ドキュメントのスキャン時に、VRS は明るさを判断するためにイメージ結果を評価します。次に VRS はイメージ結果を [Clarity] タブでユーザが設定した値と比較し、同時に [Warnings] タブでユーザ設定された Brightness Out of Range のしきい値の許容値を認識します。このようなリアルタイムの評価を基に、VRS はイメージを受け入れてスキャンアプリ

ケーションに送るか、または[Warnings]タブでユーザ定義された動作に従って処理するかを決定します。

たとえば、[Clarity]タブの明るさの値が 50 で、[Warnings]タブでのしきい値が 10 の場合、VRS は検出された明るさの値が 40 から 60 の範囲の値を持つイメージを受け入れます。範囲は 50 から 10 を引いた 40 から始まり、50 に 10 を足した 60 で終わります。従って、明るさの値が 70 のイメージは、有効範囲外となります。VRS は、[Warnings]タブで表示された Brightness Out of Range に対する動作を実行して処理します。

「Contrast Out of Range」(コントラストの許容範囲外)のしきい値

コントラスト値の有効な範囲を定義するために使用するしきい値です。ドキュメントのスキャン時に、VRS はコントラストを判断するためにイメージ結果を評価します。次に VRS はイメージ結果を[Clarity]タブでユーザが設定した値と比較し、同時に[Warnings]タブでユーザ設定された Contrast Out of Range のしきい値の許容値を認識します。このようなリアルタイムの評価を基に、VRS はイメージを受け入れてスキャンアプリケーションに送るか、または[Warnings]タブでユーザ定義された動作に従って処理するかを決定します。

たとえば、[Clarity]タブのコントラストの値が 65 で、[Warnings]タブでのしきい値が 15 の場合、VRS は検出されたコントラストの値が 50 から 80 の範囲の値を持つイメージを受け入れます。範囲は 65 から 15 を引いた 50 から始まり、65 に 15 を足した 80 で終わります。従って、コントラストの値が 40 のイメージは有効範囲外となり、警告を発生させます。VRS は、[Warnings]タブで表示された Contrast Out of Range に対する動作を実行して処理します。

「Missing Corner」(原稿端の折れ)のしきい値

VRS が例外と認識する Missing corner のレベルを定義するために使用するしきい値です。しきい値はパーセントで指定され、イメージが切れたりはっきりと読み取られない領域を原稿幅の割合で表します。

たとえば、右上隅に 0.5 インチの折り幅を持つドキュメントをスキャンする場合、しきい値は約 6% (標準 8½ x 11 シート) となります。Missing Corner のしきい値を 7% に設定した場合、VRS は警告を出すことなくドキュメントを処理します。5% の設定にすると、VRS は警告を発し、[Warnings] タブでリストされた Missing Corner に対する動作を実行して処理します。

注意 Missing Corner のしきい値はデフォルトで off に設定されています。

「Blank Page」(白紙ページ)のしきい値

Blank Page の警告が発生するデータの不足レベルを定義するために使用するしきい値です。Blank Page のしきい値は 0~10 の範囲で設定され、最も厳しい基準である 0 の値を設定すると、完全な白紙状態のイメージに対してのみ警告が発生します。10 の値は最も基準が緩く、一部のデータや染み、影を含む白紙ページも検出します。必要に応じて、スキャンするドキュメントタイプに最適なしきい値を設定してください。

注意 Blank Page のしきい値を読取るドキュメントの色に合わせて調整する必要があるかもしれません。たとえば、白の白紙ページを検出できるレベルのしきい値でも、背景が濃い緑の白紙ページは検出できないことがあります。カラードキュメントをスキャンする前に、各色ごとにサンプルをスキャンして Blank Page のしきい値を確認することをお勧めします。

Action (動作) の選択

警告条件が生じた場合、VRS は選択した動作設定に従って処理します。動作タイプに関する詳細は、47ページの「Action (動作) オプション」を参照してください。

[Errors] (エラー) タブ

[Errors]タブでは、デバイスの競合や用紙搬送エラーに関する例外条件の一覧表が表示されています。[Action]カラムで、各エラータイプに対するVRSの処理を設定します。設定を変更するには、[Action]ボックスをクリックして、ドロップダウンリストから新規の設定を選択します。詳細は「動作オプション」を参照してください。

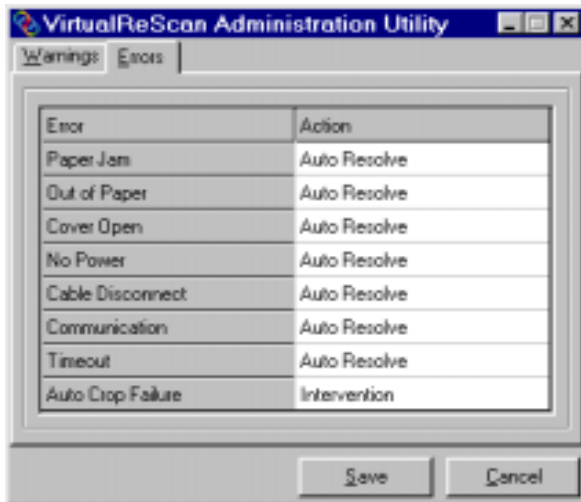


図 4 VRS Administration Utility - [Errors]タブ

表2 エラーの種類

エラー	説明
Paper jam (紙詰まり)	スキャナの給紙/排紙経路で紙詰まりしています。
Out of Paper (ホッパエンブティ)	用紙切れです。
Cover Open (カバーオープン)	スキャナのカバーが正しく閉じられていません。
No Power (電源オフ)	電源がオフになっています。電源ケーブルがしっかり接続されていません。
Cable Disconnect (ケーブル未接続)	スキャナのケーブルがスキャナに、あるいはコンピュータの Adrenaline ハードウェアアクセラレータに正しく接続されていません。
Communication (通信エラー)	スキャナとコンピュータ間で競合が発生しています。
Timeout (タイムアウト)	スキャナが指定時間内に応答できません。
Auto Crop Failure (自動クロップ失敗)	過度のスキューやその他の理由により、VRS が読み取りドキュメントの端を検出できません。

注意 VRS を一部の ISIS スキャニングアプリケーションと共に使用すると、「Out of Paper」のエラーは検出されません。

Action(動作)オプション

[Action]ボックスで[Warnings]タブや[Errors]タブに表示された各例外タイプの処理を定義します。例外動作タイプを定義するには、[Warnings]タブまたは[Errors]タブの[Action]ボックスをクリックして、ドロップダウンリストから設定を選択します。動作オプションは警告またはタイプにより異なります。

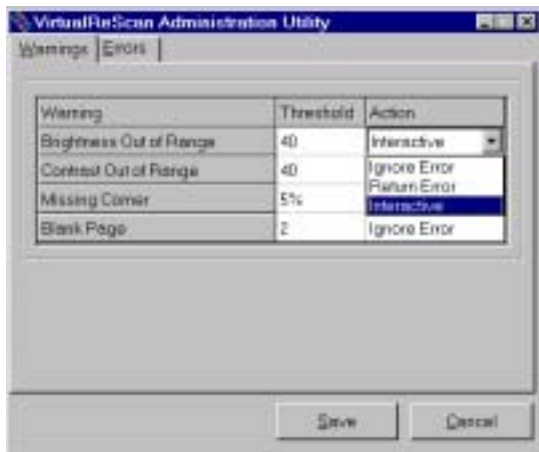


図5 動作ドロップダウンリスト

表3 動作タイプ

動作タイプ	説明
Return Error (エラーを返す)	イメージなしでエラーをホストアプリケーションに送ります。
Ignore Error (エラーを無視する)	“ 現行のまま ” イメージを受け入れます。イメージはホストアプリケーションに送られ、スキャンセッションが再開します。
Intervention (手動修正)	手動モードで自動修正マネージャを開きます。エラーを処理するためのオプション範囲がユーザに提示されます。次のセクション、「Auto Resolve Manager を使用する」を参照してください。
Auto Resolve (自動修正)	自動モードで Auto Resolve Manager を開きます。ユーザがケーブルのゆるみ、紙詰まり、原稿切れなどのデバイスまたは原稿搬送の障害を解決するまでスキャナは自動的にスキャンを再試行します。次のセクション、「Auto Resolve Manager を使用する」を参照してください。
Interactive	[VRS Interactive Properties]ダイアログボックスを開いて、VRS ビューアのイメージを表示して現行のイメージに新規の設定を適用します。ダイアログボックスでは警告条件に最も関連しているタブが開かれます。たとえば、「Brightness Out of Range」の警告が生じた場合、ダイアログボックスでは明るさの設定が調節できる[Clarity]タブが開かれます。

▶ 例外条件パラメータを定義するには

- 1 Windows のタスクバーの VRS アイコンを右クリックして VRS メニューを開きます。
- 2 VRS メニューから [Configure] を選択して、[VRS Administration Utility] ダイアログボックスを開きます。
- 3 次のいずれかのタブを選択します。
 - a [Warnings] タブ
[Warnings] タブには、表 1 に表示されたしきい値の設定や画質に関する例外の処理を設定するオプションがあります。
 - b [Errors] タブ
[Errors] タブには、表 2 に表示されたデバイスの競合や用紙搬送エラー、用紙端検出に関する例外の処理を設定するオプションがあります。
- 4 各タブの設定を調整します。
 - a [Warnings] タブ しきい値
[Warnings] タブから、[Threshold] ボックスに直接入力するか、矢印をクリックして新規のしきい値の設定を選択します。しきい値の設定についての詳細は、「[Warnings] タブ」を参照してください。
 - b [Warnings] タブ/[Errors] タブ 動作
各例外タイプの処理を定義するには、[Warnings] タブまたは [Errors] タブの [Action] ボックスをクリックして、ドロップダウンリストから設定を選択します。詳細は「Action (動作) オプション」を参照してください。
- 5 設定を確認したら、[Save] をクリックします。

Auto Resolve Manager を使用する

VRS は例外条件が発生するたびに[Auto Resolve Manager]ダイアログボックスを開きます。[Auto Resolve Manager]は、[VRS Administration Utility]ダイアログボックスで定義された手動修正または自動修正の動作タイプにより表示されます。Auto Resolve Manager は、次に説明されるように例外処理の範囲を提供します。



図6 VRS Auto Resolve Manager

[Auto Resolve]チェックボックス

[VRS Administration Utility]ダイアログボックスでエラー条件の処理動作が[Auto Resolve]と指定されている場合は、チェックボックスにチェックマークがついています。チェックボックスがチェックされていると、Auto Resolve Manager は自動モードになります。VRS は例外条件が解決されるまで、自動的に再スキャンを試行します。問題となっているエラーに対して一時的に自動修正機能を無効にしたい場合は、チェックをはずします。ドキュメントを再度スキャンする準備ができたなら、[Rescan]ボタンを選択します。[Auto Resolve]チェックボックスが外されていると、Auto Resolve Manager は手動モードになり、[Rescan]、[VRS]、[Ignore (OK)]ボタンが有効になります。VRS は、いずれかのボタンが選択されるまで、動作しません。

[Rescan] (Intervention モードのみ)

ドキュメントをスキャナに再ロードした後、このボタンを選択してシートを再スキャンします。

[VRS] (Intervention モードのみ)

[VRS Interactive Property]ダイアログボックスを開いて、問題のイメージにプロパティの変更を適用します。[VRS Interactive Property]ダイアログボックスでは、現行の例外イメージに最も関係しているタブが開かれます。たとえば、「Brightness Out of Range」の警告が生じた場合、[VRS Interactive Property]ダイアログボックスでは明るさの設定が調節できる[Clarity]タブが開かれます。

[Ignore (OK)] (Intervention モードのみ)

“現行のまま”イメージを受け入れます。イメージはホストアプリケーションに送られ、スキャン処理を続行します。

[Abort (キャンセル)]

バッチの停止またはスキャン処理をキャンセルします。[Abort]を選択すると、エラー情報がスキャンアプリケーションに送られます。この際、エラーイメージはスキャンアプリケーションに送られません。

モードの選択

[Mode]メニューオプションは、イメージの検証とインタラクティブアップデートの際にVRS ユーザインターフェースが開く条件をコントロールします。

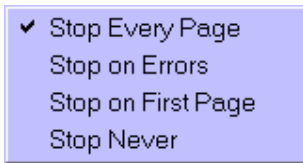


図7 モードメニュー

VRS メニューで[Mode]コマンドを選択し、VRS ユーザインターフェースを表示する条件を指定できます。

Stop Every Page

[VRS]ダイアログは各ドキュメントをスキャンした後、または両面スキャンで、各ドキュメントの片面がスキャンされた際に開きます。

Stop on Errors

[VRS]ダイアログは、例外条件が発生した場合に開きます。

Stop on First Page

[VRS]ダイアログは、最初のページのバッチをスキャンした場合と例外条件が発生した場合に開きます。

Stop Never

[VRS]ダイアログは、例外条件が発生した場合でも表示されません。この場合、例外はすべてスキャンアプリケーションに送られます。([Ignore (OK)])と定義されていない場合)

インストール終了後、モードは[Stop on Errors]に設定されており、スキャン処理中に例外イメージが検出されると[VRS Viewer]と[VRS Interactive Property]ダイアログボックスが開きます。一度設定されると、モードは変更されるまで有効です。

▶ モードを変更するには

- 1 Windows タスクバーの[VRS]アイコンを右クリックして VRS メニューを開きます。
- 2 VRS メニューで[Mode]を選択します。
- 3 [Mode]サブメニューから操作モードを選択します。

イメージプロパティの更新

スキャン中、[VRS]を使用して例外と認識されたイメージを変更できます。例外イメージを更新するには、[VRS Interactive Property]ダイアログボックスを開いて、VRS ビューアに表示されたイメージにプロパティの変更を適用します。

[VRS Interactive Property]ダイアログボックスと[VRS ビューア]は次の場合にかきます。55 ページを参照して下さい。

- VRS が、処理がインタラクティブと定義された例外イメージを検出した場合。
「例外条件パラメータの定義」を参照してください
- アクティブ操作モードが定義されている場合。「モードの選択」を参照してください。
- プレビュー機能を選択した場合。「イメージのプレビュー」を参照してください。
- VRS Auto Resolve Manager の[VRS]ボタンを選択した場合。「Auto Resolve Manager を使用する」を参照してください。

図 8 のように、[VRS ビューア]と[VRS Interactive Property]ダイアログボックスの両方が開きます。[VRS Interactive Property]ダイアログボックスを使って、VRS ビューアのイメージに変更を適用します。

詳細は、次のセクション「VRS ビューアの使用」および「[VRS Interactive Property]ダイアログボックスの使用」を参照してください。

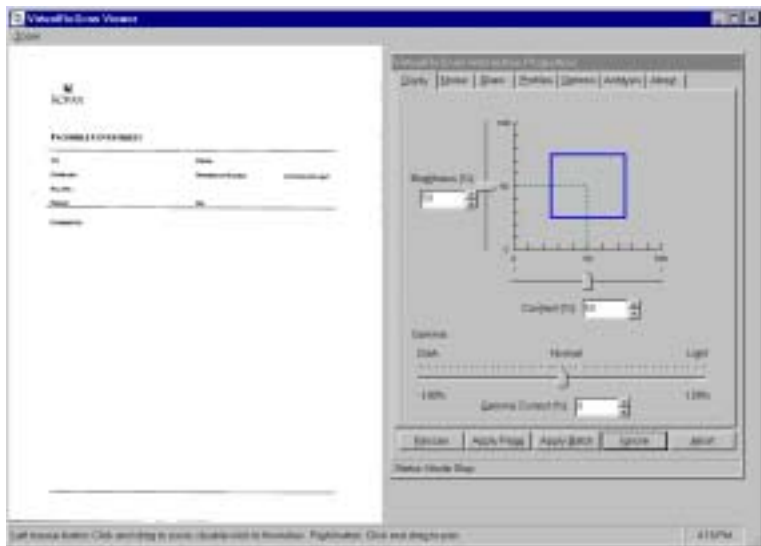


図8 VRS ビューアと[VRS Interactive Property]ダイアログボックスの両方が開いている場合

VRS ビューアの使用

VRS ビューアでは、スキャンイメージが表示され、イメージの検証ができます。ビューアは、スキャンした際のイメージのプレビューを表示すること、また、プロパティに変更を適用した場合にイメージを更新することを目的としています。

注意 VRS ビューアがイメージの更新をできる限り早く行うため、[Option]タブで Accelerated VRS 更新機能を有効にできます。76 ページの「[Option]タブの使用」を参照してください。

VRS ビューアには倍率を選択できる[ZOOM]メニューがあります。

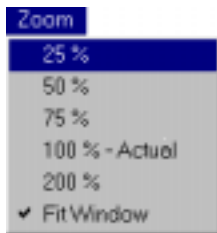


図9 VRS ビューアズームメニュー

表示の調節に[Zoom]メニューを使用する

[Zoom]メニューでビューアイメージの拡大および縮小を選択できます。[Fit Window]設定を使用して VRS ビューアに全体のイメージを表示することができます。

表示の調節にマウスボタンを使用する

[VRS]ビューアでは、マウスの左右ボタンを使ってイメージ表示を調節できます。

マウスの左ボタンで次のことができます。

- 拡大して表示したい部分をマウスでクリックアンドドラッグし四角形で囲むと、イメージの一部を拡大表示できます。
- 標準表示に戻すには、イメージをダブルクリックします。

マウスの右ボタンを使用して、VRS ビューア内のイメージの位置を移動できます。

[VRS Interactive Property]ダイアログボックスの使用

[VRS Interactive Property]ダイアログボックスは、スキャン時のイメージプロパティをダイナミックに調節できるオプションがある3つのタブを含む7つのタブで構成されています。7つのタブは、図10のとおりです。

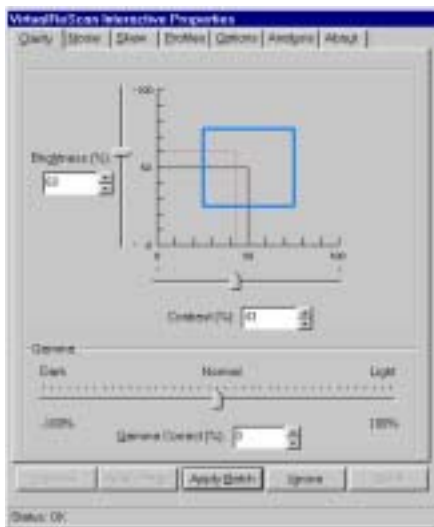


図10 [VRS Interactive Property]ダイアログボックス

例外条件でダイアログボックスが開くと、ステータス行には警告およびエラーに対する特定の原因が表示されます。または、ステータス行に[Status OK]が表示されます。ダイアログボックスでは現行の警告あるいはエラー状態に関連するタブが開きます。

たとえば、警告が「Brightness Out of Range」状態によって発生している場合、[VRS Interactive Property]ダイアログボックスは[Clarity]タブを開きます。[Clarity]タブを使ってエラー状態を解決する調節をすることができます。

[VRS Interactive Property]ダイアログボックスタブ

[VRS Interactive Property]ダイアログボックスには以下のタブがあります。

[Clarity]（鮮明度）タブ

このタブで、明るさとコントラストの調整とガンマ補正を行います。詳細は62ページの「[Clarity]タブを使用する」を参照してください。

[Noise]（ノイズ）タブ

このタブで、文字の細さと太さ（ラインフィルタ）を適用したり、イメージから不要な斑点を除去します。詳細は「[Noise]タブを使用する」を参照してください。

[Skew]（傾き）タブ

このタブで、イメージをまっすぐ（傾き補正）にします。[Skew]タブの設定はVRSビューアウィンドウの現行のイメージにのみ適用できます。詳細は、「[Skew]タブを使用する」を参照してください。

[Profile] (プロフィール) タブ

このタブで、イメージプロパティプロフィールを作成し管理します。プロフィールは、[VRS Interactive Property]ダイアログボックスの[Clarity]、[Noise]、[Option]タブのユーザ設定から構成されています。詳細は「[Profile]タブを使用する」を参照してください。

[Option] (オプション) タブ

このタブで接続されているスキャナ特有のオプション機能（自動スキュー補正、イメージクロップ、加速スキャン、VRS 更新、自動明度調節）を有効にします。詳細は「[Option]タブを使用する」を参照してください。

[Analysis] (分析) タブ

このタブで、最近スキャンされたプロパティイメージのサマリを表示します。詳細は、「[Analysis]タブを使用する」を参照してください。

[About] (バージョン情報) タブ

このタブでは、VRS ソフトウェアのバージョン情報の他、Kofax Image Products 社の住所、電話番号、FAX 番号、Web サイトアドレス、電子メールアドレスなどを表示します。さらに、[VRS Online]ボタンで、製品情報および VRS 製品のアップデート方法を提供する VirtualReScan web サイトに直接アクセスできます。詳細は、「[About]タブを使用する」を参照してください。

[VRS Interactive Property]ダイアログボックスのボタン

次に示すボタンは[VRS Interactive Property]ダイアログボックスを使用している際に有効になります。ボタンの選択は、アクティブになっているタブも含めダイアログボックスのタブすべてに適用されます。[VRS Interactive Property]ダイアログボックスで設定を変更すると、変更は VRS を閉じるまで有効となります。VRS が再起動される時、ダイアログボックスはデフォルト設定にリセットされます。

[Rescan] ボタン

ドキュメントをスキャナに再ロードした後、再度シートをスキャンする準備ができた時点でこのボタンを選択します。ADF（自動給紙機構）を使用している場合、ドキュメントをスキャナの ADF にセットする必要があります。

[Apply Page] ボタン

このボタンを使用して、現行の設定を VRS に表示されているイメージに適用します。この設定は後続のスキャンイメージには適用されません。（修正した値を表示しているイメージに適用）

[Apply Batch] ボタン

このボタンを使用して、現行のダイアログボックスの設定を VRS ビューアウィンドウ内のイメージに適用します。この設定は、後続のバッチスキャンに対しても有効です。

[Ignore] ボタン

このボタンを使用して、VRS がイメージを“現行のまま”受け入れるように設定します。VRS は警告・エラー状態を無視し、読取を再開します。さらに、VRS はいかなる変更も無視し、ダイアログボックスが最初に開いた時点で有効であった設定に戻します。（修正した値を無視して変更前の状態に戻します。）

[Abort] ボタン

このボタンを使用して、バッチスキャンを停止します。[VirtualReScan Interactive Property] ダイアログボックスは、変更を適用あるいは保存せずに閉じられます。[Abort] を選択すると、VRS はすべてのエラーをスキャンングアプリケーションに送りますが、エラーイメージはスキャンングアプリケーションには送られません。

[Clarity]タブを使用する

[Clarity]タブには、イメージのコントラスト、明るさ、ガンマ補正の調節オプションがあります。「コントラスト」はイメージの最も明るい部分と最も暗い部分の明るさの比に関係しています。「明るさ」は、イメージのグレー濃度に関係しています。ガンマはイメージの明るい領域と暗い領域の濃淡のコントラストに関係しています。

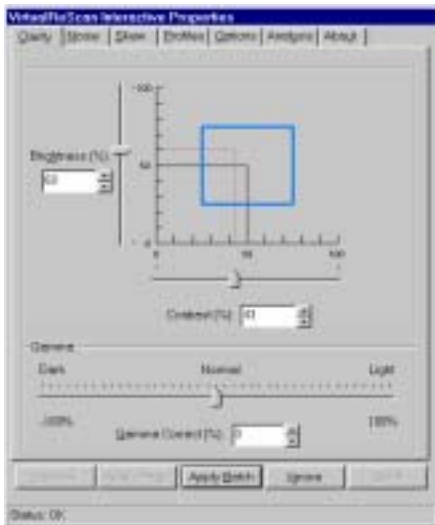


図 11 [Clarity]タブ

明るさとコントラスト

明るさの値は、ユーザが定義できます。または VRS が自動的に最適な値を設定します。VRS が設定する値を有効にするには、[Option]タブの[Brightness Adjustment]チェックボックスを選択します。「[Option]タブを使用する」を参照してください。

スキャンイメージの明度が有効であるかチェックする際、VRS は[Clarity]タブの設定と VRS Administration Utility の[Warnings]タブの設定ををチェックします。イメージの明るさの値が[Clarity]タブで設定された明るさの値と一致するか、あるいは[Warnings]タブで設定された Brightness Out of Range のしきい値の範囲にあれば、VRS はその値を受け入れます。イメージの明るさの値が許容範囲にない場合、VRS はイメージを除外します。

たとえば、[Clarity]タブで明るさのレベルが 50 に設定され、[Warnings]タブで Brightness Out of Range のしきい値が 10 に設定されている場合、VRS は 40 から 60 の明るさの値を持つイメージを受け入れます。(40 と 60 の値は、50 の設定値に対して 10 のエラーマージンを表しています) VRS が許容範囲外の明るさを持つイメージを検出した場合、[Warnings]タブに表示されている[Brightness Out of Range]に対する動作を実行します。

ガンマ

ガンマ補正は、イメージの濃淡のコントラストに関係します。設定の調節には、スライダを使用するか、あるいは[Clarity]タブの[Gamma Correct]ボックスに値を入力します。

明るさとコントラストのビジュアルマーカー

[Clarity]タブには、明るさとコントラストの有効な範囲を認識するのに役立つ次のようなビジュアルマーカーが含まれています。

黒色のライン

黒色のラインは、明るさとコントラストのベースラインの値、つまり[Apply Batch]ボタンで設定した最も新しい値を表します。

青い四角形

この四角形は明るさの値とコントラストの値の受容範囲を表します。四角形は、明るさとコントラストの基準設定を中心に配置され、その境界線は[VRS Administration Utility]ダイアログボックスの明るさとコントラストのしきい値を表しています。VRSの検出値が有効であるためには、青い四角形の範囲内に値がある必要があります。検出値が青い四角形の範囲外である場合は、無効であり警告が出されます。

赤い点線

赤い点線は、明るさとコントラストの現行の値を表します。[自動明度調整]を有効にしている場合、赤い点線は自動調整され、「自動明度」を反映します。

▶ [Clarity]設定を変更するには

- 1 [VRS Interactive Property]ダイアログボックスの[Clarity]タブを選択します。
 - a コントラストと明るさを同時に調整するためには、Brightness/Contrastの目盛りの境界線内をクリックします。

十字線が Brightness/Contrast の目的の値で交差するようにポインタをクリックします。Brightness/Contrast の目盛りには点線が現れます。水平方向の点線は明るさの値を表し、垂直方向の点線はコントラストの値を表します。

- b コントラストと明るさを別々に設定する場合は、次のステップに進みます。
- 2 VRS は、[Brightness]のテキストボックスに現行の明るさの設定値を表示します。設定を変更するには、次のいずれかを行います。
 - a [Brightness]のテキストボックスをクリックし、矢印をクリックして選択リスト内を移動します。希望の設定をクリックして選択します。
 - b [Brightness]のテキストボックスをクリックし、値を入力します。
 - c 明るさのスライダを使用して値を選択します。
 - 3 VRS は、[Contrast]のテキストボックスに現行のコントラストの設定値を表示します。設定を変更するには、次のいずれかを行います。
 - a [Contrast]のテキストボックスをクリックし、矢印をクリックして選択リスト内を移動します。希望の設定をクリックして選択します。
 - b [Contrast]のテキストボックスをクリックし、値を入力します。
 - c コントラストのスライダを使用して値を選択します。
 - 4 VRS は、[Gamma Correct]のテキストボックスにガンマ補正の設定値を表示します。補正值の範囲は、[Dark]から[Light]まであり、中間が[Normal]です。設定を変更するには、次のいずれかを行います。
 - a [Gamma Correct]のテキストボックスをクリックし、矢印をクリックして選択リスト内を移動します。希望の設定をクリックして選択します。
 - b [Gamma Correct]のテキストボックスをクリックし、値を入力します。
 - c ガンマ補正のスライダを使用して値を選択します。

[Noise] タブを使用する

[Noise] タブは、画質を高めたり、余分な斑点を除去するフィルタを提供しています。[Noise] 設定を調節すると、VRS ビューアウィンドウのイメージに適用されます。目的の基準を達成するまで、イメージの設定を細かく調節することができます。

注意 [Noise] タブ設定は、白黒のスキャンのための設定で、グレースケールのスキャンには反映されません。



図 12 [Noise]タブ

▶ [Noise]設定を変更するには

- 1 [VRS Interactive Property]ダイアログボックスの[Noise]タブを選択します。
- 2 [Enhancement Filters]で次のいずれかを選択します。
 - a [None]: すべての Enhancement filters を無効にします。

- b [Descreening]: ハーフトーンパターンの除去に役立つ shade 除去フィルタを有効にします。
 - c [Image smoothing]: イメージ上のギザギザの線や文字を平滑化するフィルタを有効にします。
 - d [Image cleanup]: 文字の平滑化、背景のノイズ除去、ラインの削除を行うフィルタを有効にします。
- 3 [Erosion/Dilation Filter]スライダを使用して、イメージの要素に適用する太さ/細さを選択します。
- a 膨らんだイメージ要素や、混ざり合ったイメージ要素を細かくするには、スライダを [Thin] に向かって移動します。
 - b 細すぎたり薄すぎるイメージ要素には、スライダを [Thick] 方向に向かって移動します。
- 4 [Speckle Removal Filter]スライダで余分な黒い斑点を取り除きます。
- a 目的の画質を達成するため小さな斑点を除去する場合には、スライダを [Small] の方向に移動します。
 - b 目的の画質を達成するため中、小の斑点を除去する場合には、スライダを [Medium] の方向に移動します。
 - c 目的の画質を達成するため大、中、小の斑点を除去する場合には、スライダを [Large] の方向に移動します。

[Skew]タブを使用する

[Skew]タブの設定を使用して、VRS ビューアでは傾いたあるいは曲がったイメージをまっすぐに整えることができます。イメージは、角度調節アームを使用して時計回りまたは反時計回りに 360 度まで回転できます。必要ならば、[Fine Angle Adjustment]スライダを使用して角度を微調整できます。[Skew]タブの[Angle]テキストボックスには現行のイメージ角度を表示され、0.00 は傾き 0 を表します。

注意 傾き補正プロセスは、イメージ上のテキストよりもむしろイメージそれ自体をまっすぐにするよう設計されています。(ページ上のデータを補正するわけではないので、元のドキュメントのデータが曲がっている場合、データは補正されません。)



図 13 [Skew]タブ

VRS がバッチの傾いたイメージを自動的に補正するよう設定するには[Automatic Deskew]機能を選択します。「[Option]タブを使用する」を参照して下さい。

▶ [Skew]タブの設定を変更するには

- 1 [VRS Interactive Property]ダイアログボックスの[Skew]タブを選択します。
- 2 角度調節アームを使い、イメージがまっすぐになるまで調節します。
 - a マウスを縦のアーム上に置き、クリックしてホールドします。カーソルがハンドに変わります。

- b イメージを左に回転するには、アームを反時計周りに回転させます。イメージを右に回転するときは時計回りに回転させます。イメージは、360度まで回転できます。
- 3 [Angle]テキストボックスには、角度を調節する方法が2つ用意されています。
 - a カーソルを[Angle]テキストボックスに置き、矢印をクリックして設定リストを表示させ、希望の設定を選択します。
 - b [Angle]テキストボックスに、直接希望の角度を入力します。
- 4 [Fine Angle Adjustment]スライダを使用すると、次のように傾きを1度ずつ、あるいはそれ以下の細かい角度で細かく調節できます。
 - a スライダを左端まで移動すると、反時計周りで1度角度を調節したことになります。
 - b スライダを右端まで移動すると、時計周りで1度角度を調節したことになります。
 - c スライダを0と左端の間、あるいは0と右端の間に移動すると、1度よりも少なく角度を調整したことになります。スライダの1目盛りは1度の20分の1の角度を表します。

[Profile]タブを使用する

[Profile]タブは、VRS イメージプロパティプロファイルのセットアップと管理に役立ちます。各プロファイルは[Clarity]、[Noise]、[Option]タブのユーザ定義の設定です。異なるスキャン状況に適応するように複数のプロファイルを作成して、イメージプロパティの定義を繰り返す手間を省くことができます。VRS は、別の設定が定義され選択されるまでデフォルト設定を使用します。[Profile]タブで、プロファイルの定義、更新、ロード、および削除ができます。



図 14 [Profile]タブ

▶ プロファイルを設定するには

- 1 [VRS Interactive Property]ダイアログボックスを開き、[Clarity]、[Noise]、[Option]タブで必要な選択をします。
- 2 [Profile]タブを選択します。
- 3 [New Profile]テキストボックスで新規のプロファイルの名前を入力します。プロファイル名にはアルファベットと数字のみ使用してください。
- 4 [Save as]を選択します。新規のプロファイル名が利用できるプロファイルのリストに表示され、アクティブなプロファイルとなります。

表5 プロファイル名に無効な文字

記号	名前	記号	名前
:	コロン	'	単一引用符
;	セミコロン	"	二重引用符
¥	バックスラッシュ	>	大なり
/	スラッシュ	<	小なり
	縦線	^	カレット
&	アンパーサンド	.	ピリオド
?	疑問符		

▶ アクティブなプロフィールを変更するには

- 1 [VRS Interactive Property]ダイアログボックスの[Profile]タブを選択します。
- 2 [Available Profiles]リストから、使用するプロフィールを選択します。
- 3 [Load]ボタンを選択します。

注意 アクティブなプロフィールを変更する際、イメージがVRSビューアで開いている場合に、イメージは新しい設定で更新されます。

又は、次の方法でもプロフィールを変更できます

- 1 [VRS Interactive Property]ダイアログボックスの[Profile]タブを選択します。
- 2 [Available Profiles]で、使用するプロフィール名をダブルクリックします。

さらに、次の方法も可能です。

- 1 VRSメニューの[Profile]コマンドを選択します。
- 2 [Profile]のサブメニューオプションが開いたら、使用するプロフィール名を選択します。プロフィールの選択は、一度設定されると、変更されるまで有効です。

▶ **[Available Profiles]リストからプロフィールを削除するには**

- 1 [VRS Interactive Property]ダイアログボックスの[Profile]タブを選択します。
- 2 [Available Profiles]リストから削除するプロフィールを選択します。
- 3 [Remove]をクリックします。選択したプロフィールが[Available Profiles]リストから削除されます。
- 4 削除したプロフィールが使用中の最後のプロフィールである場合、[Available Profiles]リストから別のプロフィールを選択してください。

[Option]タブを使用する

[Option]タブは自動調節、加速スキャン、イメージ更新、明るさとコントラストの最適値（あるいは自動）割り当てをサポートしています。[Option]タブから機能を選択すると、その設定は再び変更されない限り VRS セッションが続く間有効となります。



図 15 [Option]タブ

Automatic Deskew (自動傾き補正)

スキャン時に傾いたイメージを自動的にまっすぐにする VRS の機能をアクティブにします。イメージの傾きは、ドキュメントの先端で判断されます。

注意 自動傾き補正プロセスは内容単位ではなくページごとに行われます。VRS はページを自動的にまっすぐに補正しますが、ページ上のデータを補正するわけではないので、元のドキュメントのデータが曲がっている場合、データは補正されません。

傾きの角度をイメージごとに補正する場合は、自動補正機能を選択せずに [Skew] タブの設定を使用してください。「[Skew] タブを使用する」を参照してください。

Automatic Image Crop (イメージクロップ)

自動傾き補正を選択すると、スキャンドキュメントの実際の大きさを反映するため自動的に切り出しを行うイメージクロップ機能をアクティブにできます。この機能は、サイズが異なる多くのドキュメントをスキャンする際に役立ちます。

注意 お使いのスキャニングアプリケーションがイメージクロップ機能をサポートしていない場合、VRS はたとえ自動傾き補正が選択されていてもイメージクロップ機能を無効にします。

たとえばポストカードをスキャンする場合、イメージクロップ機能を使用して範囲外の境界を取り除くことができます。つまり、イメージはスキャニングアプリケーションで指定したサイズではなく実際のポストカードの寸法と一致することになります。

Accelerated Scanning (加速スキャン)

高解像度を設定するとイメージの画質は向上しますが、スキャンプロセスの速度は遅くなります。加速スキャン機能を使えば、VRS はスキャン速度を落とすことなく高解像度のイメージ画質を提供します。スキャン速度を維持するため、VRS はスキャンアプリケーションで定義する DPI (インチ当たりのドット数) レートよりも低いレートでイメージをスキャンし、さらに内部処理を行いイメージを目的の DPI 設定で出力します。

たとえば、スキャンアプリケーションで 300DPI を設定し、VRS の[Option]タブで加速スキャン機能を有効にしたとします。その結果、イメージはスキャン速度を維持するため 200 DPI でスキャンされ、VRS がそれを目的の解像度である 300DPI に変換します。次の表は VRS が加速スキャン時に使用する DPI 設定を示しています。

注意 400DPI を設定すると、VRS は自動的に加速スキャン機能を有効にします。

表 6 加速スキャン DPI 設定

ユーザ設定の DPI	実際の DPI	出力 DPI
400	300	400
300	200	300
240	200	240
200	200	200

VRS Refresh (イメージ更新)

VRS のイメージ更新機能を使用して、プロパティの変更を適用する際 VRS ビューアがイメージ更新のためにかかる時間を最小限にします。

Intelligent Contrast/Brightness Adjustment (自動コントラスト/明るさの調節)

自動コントラスト/明るさの調節機能を使うと、VRS は自動的にイメージに最適なコントラストと明るさの値を選択します。これにより設定の時間を節約できるとともに、大量のドキュメントでも各ページ毎に最適な画質を得ることができます。

たとえば、黄色のインボイスをスキャンするため自動コントラスト/明るさの調節機能を有効にすると、VRS は自動的にイメージのコントラストと明るさを調節し色付きのシートにとって最適な画質を設定します。バッチ処理にこの設定を使用すると、VRS は自動的にバッチ内の各イメージに最も的確な設定を適用します。スキャンする毎に、コントラスト/明るさの自動設定値がページ単位で[Analysis]タブに報告されません。[Clarity]タブでは、VRS に検出された自動設定値を反映して赤い点線とスライダの位置が自動的に更新されます。「[Clarity]タブを使用する」を参照ください。

▶ [Option]タブの選択を変更するには

- 1 [VRS Interactive Property]ダイアログボックスの[Option]タブを選択します。
- 2 Automatic, Accelerated, and Intelligent, で次のパッチスキャンに使用するオプションを選択してください。

[Analysis]タブを使用する

[Analysis]タブには、VRS がイメージをスキャンした際の VRS ビューアの現行のイメージプロパティの概要が表示されます。Speckle count (ノイズ除去の斑点数)を除く [Analysis] タブの情報は、全てイメージプロパティの変更を適用するまで更新されません。[Analysis] タブの情報を編集することはできません。



図 16 [Analysis]タブ

[Analysis]タブの情報は、[VRS Administration Utility]ダイアログボックスのコントラストと明るさ、および[Clarity]タブのコントラストと明るさの設定の適切なしきい値を特定するのに役立ちます。

たとえば、紫色の背景を持つ一連のドキュメントをスキャンするとします。紫色の背景に最適なコントラストおよび明るさの設定がわからない場合、サンプルペー

ジをスキャンします。スキャン後[Analysis]タブでコントラストと明るさの値をチェックすれば、[Clarity]に適切な値がわかります。

[Option]タブで Intelligent Contrast/Brightness Adjustment を有効にすると、[Analysis]タブのコントラスト/明るさの値は自動的に有効になります。設定が有効になると、VRS は自動的に[Clarity]タブの赤い点線とスライダを更新して、[Analysis]タブに表示されているコントラストと明るさの値を反映します。

[About]タブを使用する

[About]タブでは、VRS のバージョン情報、Kofax Image Products のコンタクト情報がリストされています。インターネットでのアクセスは次の通りです。

- [VRS OnLine] ボタンをクリック、あるいはwww.virtualrescan.comを選択し、VRS 製品の Web サイトにアクセスします。Web サイトでは、現在お使いの VRS ハードウェア・ソフトウェアのバージョンを自動的に検出するリンクや、製品のアップデート版のダウンロード方法が紹介されています。
- www.kofax.comを選択し、Kofax Image Products 社の Web サイトにアクセスします。



図 17 [About]タブ

イメージのプレビュー

プレビュープロセスで、要求される品質基準に合うようにイメージプロパティの設定をテストできます。プレビュー機能を使用して、ドキュメントのバッチをスキャンする前、またはバッチ間で設定を調整するために、プロパティ設定をテストします。

プレビューを選択すると、VRS は最も新しくスキャンされたイメージを VRS ビューアに表示します。[VRS Interactive Property] ダイアログボックスでプロパティの変更を適用すると、プレビューイメージが更新され、調整したイメージを検証できます。ただし、プレビューイメージの変更は、スキャンアプリケーションには送られません。イメージはプレビューのためだけに表示されますのでご注意ください。

注意 プレビュー機能は、スキャンされたイメージが VRS キャッシュにある場合のみ利用できます。

VRS ビューアウィンドウについての詳細は、「VRS ビューアの使用」を参照してください。イメージプロパティの更新についての詳細は、「[VRS Interactive Property] ダイアログボックスの使用」を参照してください。

▶ イメージをプレビューするには

- 1 バッチスキャンに使用するドキュメントタイプに類似したドキュメントをスキャンします。
- 2 VRS メニューで[Preview]を選択し、VRS ビューアにサンプルイメージを表示します。

プレビューを選択すると、VRS は常に最後にスキャンしたイメージを表示します。（イメージが存在する場合のみ）

- 3 必要に応じて、[Zoom]メニューで倍率を調整できます。

[Zoom]メニューについての詳細は、「VRS ビューアの使用」を参照してください。

- 4 必要に応じて、[VRS Interactive Property]ダイアログボックスで、イメージプロパティを変更します。

[VRS Interactive Property]ダイアログボックスについての詳細は、「[VRS Interactive Property]ダイアログボックスの使用」を参照してください。

- 5 プレビューイメージに満足した場合は、[VRS Interactive Property]ダイアログボックスの[Apply Batch]ボタンを選択します。

プロパティ設定は保存され、次にスキャンされるドキュメントのバッチに反映されます。日常的に設定を使用することが予想される場合は、設定をプロファイルに保存し、必要な際に呼び出せるようにしておきます。「[Profile]タブを使用する」を参照してください。

VRS のリセット

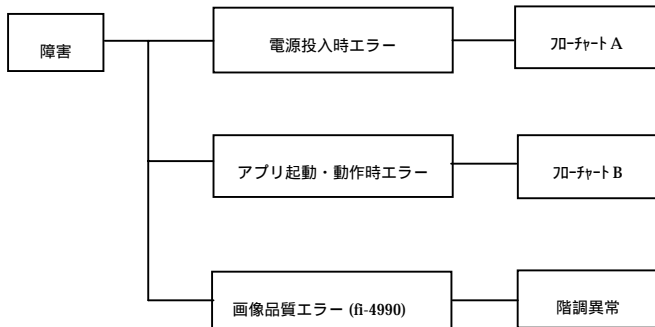
[Reset]コマンドを使用すると、お使いのコンピュータの Adrenaline ハードウェアアクセラレータにデフォルト設定を再ロードすることができます。[Reset]コマンドは、PFU テクニカルサポートスタッフによる指示があった場合のみ使用してください。

▶ VRS の設定をリセットするには

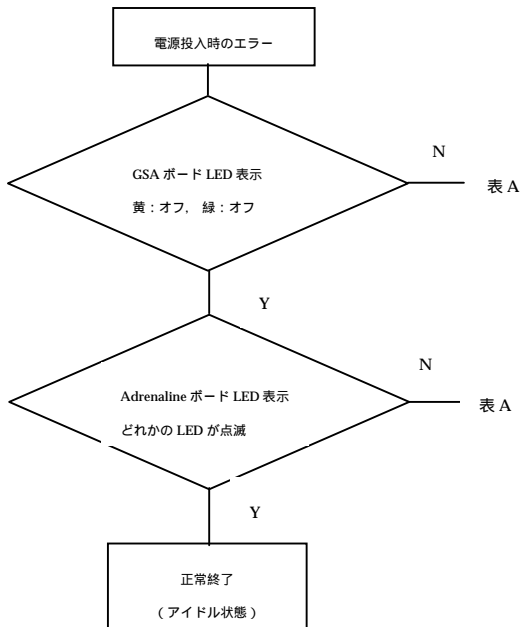
- 1 Windows のタスクバーにある VRS アイコンをクリックし、VRS メニューを開きます。
- 2 VRS メニューで [Reset] コマンドを選択します。
Adrenaline ハードウェアアクセラレータの設定がリセットされていることを示すインジケータが短時間表示されます。
- 3 お使いのスキャニングアプリケーションで、[VirtualReScan source] を選択します。
- 4 読取を開始してください。

障害追跡手順

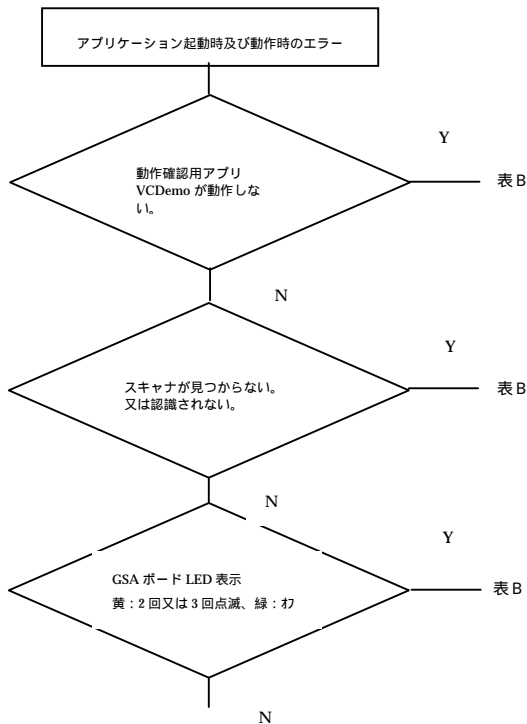
VRS の障害分析フローチャートを以下に示します。

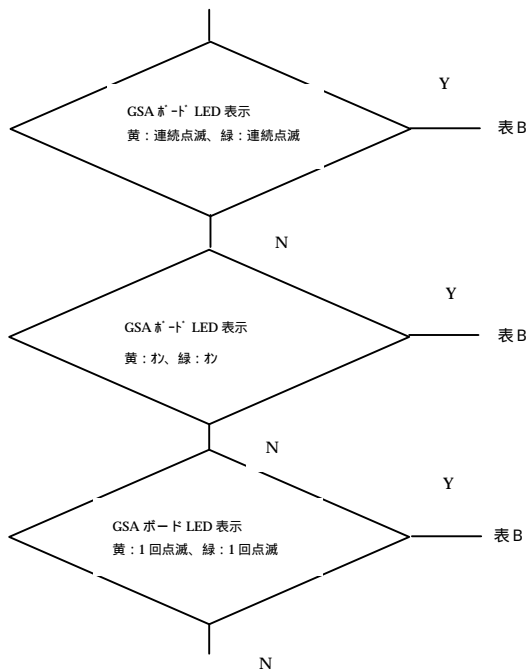


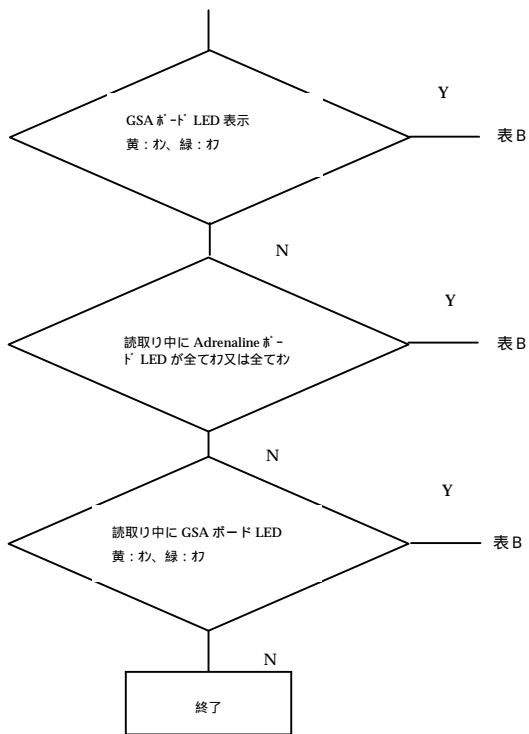
以下に電源投入時のフロ - チャートAを示します。



以下にアプリケーション起動時及び動作時のフロ - チャート B を示します。







以下に電源投入時の障害追跡手順の表 A を示します。

No.	障害追跡手順 (点検法)	判定	処置	参照ページ
1	電源投入の手順は、正常ですか？	はい	2 項へ	
		いいえ	正しい手順で、電源を投入して下さい。(コンピュータの電源を最初に投入し、OS が完全に立ち上がってからスキャナの電源を投入して下さい。)	ステップ 6 VRS 動作確認
2	GSA ボード (スキャナの TPS スロット) へのケーブル (VRS ケーブル) は正しく接続されていますか？	はい	3 項へ	
		いいえ	ケーブルを正しく接続して下さい。	ステップ 5 スキャナの接続
3	Adrenaline ボード (コンピュータ側) へのケーブルは正しく接続されていますか？	はい	4 項へ	
		いいえ	ケーブルを正しく接続して下さい。	ステップ 5 スキャナの接続
4	GSA ボード (スキャナの TPS スロット) は正しく装着されていますか？	はい	5 項へ	
		いいえ	GSA ボードを正しく装着して下さい。	ステップ 4 GSA (グレースケールアダプタ) のインストール
5	スキャナ装置のセットアップモードで、ホストインタフェースは AUTO (ド) 又は TP_IF (TPS) に設定されていますか？ (工場出荷時: AUTO)	はい	6 項へ	
		いいえ	スキャナ装置のセットアップモードで、ホストインタフェースを AUTO (ド) 又は TP_IF (TPS) に設定して下さい。	装置取扱説明書
6	Adrenaline ボード (コンピュータ側) は正しく装着されていますか？	はい	7 項へ	
		いいえ	Adrenaline ボードを正しく装着して下さい。	ステップ 3 Adrenaline (アクセラレータ) のインストール

7	コンピュータの PCI バスは、正常ですか？	はい	8 項へ	
		いいえ	Adrenaline ボードを別の空き PCI スロットへ装着して下さい。	ステップ 3 Adrenaline(アクセラレータ)のインストール
8	VRS ケーブル (SCSI3-SCSI3 の 68 ピン) を交換しても現象が再発しますか？	はい	9 項へ	
		いいえ	終了	ステップ 5 スキャナの接続
9	コンピュータの電源を最初に投入し、OS が完全に立ち上がってからスキャナの電源を投入して下さい。スキャナ電源投入後、約 15 秒で、次を確認して下さい。 スキャナ側の GSA ボードの黄色と緑色の LED は、両方ともオフになっていますか？	はい	10 項へ	
		いいえ	GSA ボードが不良の可能性があります。 株式会社 P F U イメージングサービス&サポートセンターまでご連絡ください。(センドバック修理で対応します)	ステップ 4 GSA(グレースケールアダプタ)のインストール
10	Adrenaline ボードの LED は、どちらかが点滅していますか？	はい		
		いいえ	コンピュータ又は、コンピュータ側の Adrenaline ボードが不良の可能性があります。 Adrenaline ボードが故障原因の場合は、株式会社 P F U イメージングサービス&サポートセンターまでご連絡ください。(センドバック修理で対応します)	ステップ 3 Adrenaline(アクセラレータ)のインストール

表 A

以下にアプリケーション起動時の障害追跡手順の表Bを示します。

No.	障害追跡手順（点検法）	判定	処置	参照ページ
1	VCDemo プログラムが起動できますか？ 又は起動すると VCDemo 画面が表示されますか？	はい	2 項へ	
		いいえ	VRS ソフトウェアのインストールが完了していません。再インストールを行ってください。	ステップ2 VRS ソフトウェアのインストール
2	Windows のコントロールパネルに「KSM(32-bit)」のアイコンがありますか？	はい	3 項へ	
		いいえ	VRS ソフトウェアのインストールが完了していません。再インストールを行ってください。	ステップ2 VRS ソフトウェアのインストール
3	Windows のコントロールパネルシステム ハードウェア デバイスマネージャーを選択して下さい。 Kofax Image Processor の中に Adrenaline がデバイスとして正常に認識されていますか？	はい	4 項へ	
		いいえ	その他のデバイスとして認識されていれば Adrenaline のデバイスドライバ及び VRS ソフトウェアのインストールが完了していません。手順に従って、再インストールを行ってください。	VRS ソフトウェアのインストール手順を間違えたとき
4	コンピュータに実装している Kofax 製ハードウェアアクセラレータは、VRS 用の Adrenaline だけですか？	はい	5 項へ	
		いいえ	競合の可能性があるため、他の Kofax 製ハードウェアアクセラレータ及びソフトウェアは、アンインストールして下さい。	ステップ2 VRS ソフトウェアのインストール
5	接続するスキャナの「Scan Source」を選択していますか？	はい	6 項へ	
		いいえ	VCDemo 画面の「Scanner」を選択し、接続するスキャナの「Scan Source」を選択してください。 スキャナが見つからない、又は認識できないときは、表 3.2 電源投入時のエラーへ	ステップ6 VRS 動作確認
6	Windows のタスクバーに VRS アイコンが表示されていますか？	はい	7 項へ	

		いいえ	<p>VC Demo 画面の「Scanner」を選択し、接続するスキャナの「Scan Source」を選択してください。</p> <p>スキャナが見つからない、又は認識できないときは、表 3.2 電源投入時のエラーへ</p>	ステップ 6 VRS 動作確認
--	--	-----	--	-----------------

表 B

以下に fi-4990 画像品質エラー時の障害追跡手順の表 C を示します。

No.	障害追跡手順（点検法）	判定	処置	参照ページ
1	階調異常（黒いノイズ）が発生する場合、 fi-4990 イメージスキャナで、裏黒当てを装着していますか？	はい	<p>スキャナ装置のセットアップモードで「クロウラアテソウチャク」の設定をオンにしてください。</p> <p>テストモードで「AG チョウセイ」の設定を行って下さい。</p>	装置取扱説明書 セットアップモード及びテストモード
		いいえ	<p>VRS を使用する場合は裏黒当てを装着して下さい。</p> <p>VRS を使用しない場合は、スキャナ装置のセットアップモードで「クロウラアテソウチャク」の設定をオフにしてください。</p>	装置取扱説明書 セットアップモード

表 C

修理部品の交換

修理部品には以下のものがあります。

以下の部品が故障原因の場合は、株式会社P F U イメージング サービス&サポートセンターまでご連絡ください。(SENDバック修理のみ対応致します。)

名称	部品番号	備考
GSA4750	VR-4000-1001	fi-4750 イメージスキャナ用 (スキャナ側)
GSA4990	VR-4000-2001	fi-4990 イメージスキャナ用 (スキャナ側)
ADRENALINE850S	EH-850-1000	fi-4750 イメージスキャナ用 (パソコン側)
ADRENALINE1700S	EH-1700-1000	fi-4990 イメージスキャナ用 (パソコン側)

PFU テクニカルサポート

VRS 及びイメージスキャナに関するお問い合わせに迅速に対応します。

サポートをスムーズに行うため、お問合せ頂く前に次の情報のご用意をお願い致します。

- ・ VRS (GSA/Adrenaline/ソフトウェア) のモデル名、シリアルナンバー、及びバージョン情報
(プリント板上のラベル又は添付の Registration Card を参照下さい。)
- ・ イメージスキャナのタイプ及びモデル
- ・ コンピュータを含む周辺機器の種類
- ・ オペレーティングシステムの種類
- ・ エラーメッセージを含む問題の詳細

連絡先：株式会社 PFU イメージングサービス & サポートセンター

TEL 0120-37-9089 (フリーダイヤル)

042-788-7746 (携帯電話から)

(月～金 9:00～12:00、13:30～17:00)

(土曜、日曜、祝日、年末年始、弊社休業日を除く)

E-Mail : scanners@pfu.fujitsu.com

住所：〒194-8510 東京都町田市鶴間 658-1